

# 無症状病原体保有者の考え方

## 無症状病原体保有者の類型

- ① 咽頭にはウイルスは存在したが、その人の免疫により発病に至らない場合
- ② 感染初期であるために、いまだ症状が出ていない状態
- ③ 以前に症状があったが、現在は症状が消失し回復途上にある場合
- ④ 本来は病原体を有していないが、検査の特性上陽性となった場合(擬陽性) \*

\* 検査の性質から疑陽性はほぼない。検出限界以下の場合、検査では陰性になるので偽陰性はあるがこれは感度の問題である。また、プライマーおよびプローブの標的配列に変異があれば感度低下し、偽陰性の可能性が増加する。

# 無症状病原体保有者の考え方

## 無症状病原体保有者への対応について

- ① 感染させる可能性は完全には否定できないが、同人の免疫機能により、ウイルス量の増加は抑えられているため、感染性は低いと思われる。
- ② 感染したウイルスが感染すると、原則的には潜伏期間内に発症するため、経過観察を適切に行い、症状の出現をとらえることが重要。また、症状が出現していない場合は、ウイルスの排出量が少ないことが予想され、感染させる可能性は完全には否定できないものの、感染性は低いと考えられる。
- ③ 新型コロナウイルス感染症は、無症状であっても他人に感染させる可能性はあるが、同様の理由により無症状の場合の感染性は低いと考えられる。
- ④ 配列が一致し、増幅される必要があるため、擬陽性の可能性は極めて低い。